

1. 〈水球陣〉七帝戦第2戦

H26.8.23 対大阪大学 @京大プール

東大 3 5 2 5 15

阪大 4 5 1 2 12

得点者：山田(1)、石田(1)、池亀(3)、梶原(2)、浪間(8)

一戦目の九州大学戦の勝利に続けて、優勝に向けて勢いに乗る勝利を飾りたいところ。相手は強豪大阪大学ということもあり、ほんの少しも気の抜けない戦いとなった。

第一ピリオド

センターボールは大阪大学。阪大は最初から落ち着いてパスを回してセットで攻めてくるが、東大は練習してきたとおりの強烈なプレッシャーとパスカットでカウンターを決め、一点先取。しかし一戦目の疲れからか、ディフェンスへの戻りが間に合わず点を取られる展開も少しずつ見受けられるようになっていき、このピリオドは点を取り合う打撃戦となる。激しい攻防となって、1点をリードされたまま第一ピリオド終了。

第二ピリオド

センターボールを取った大阪大学は、やはり落ち着いてセットを組んで、フローターを使って点を決めてくる。東大も点差を広げられてはならないと、フローター浪間の攻撃力で点を取る自慢の攻撃を展開。東大の鍛えてきた強固なディフェンスを乗り越えてくる大阪大学とあって、このピリオドもまた互いに点を取り合う熾烈な展開となる。オフェンス力は東大も譲らず、このピリオドは5対5で同点となり、阪大1点リードで前半終了。

第三ピリオド

センターボールは大阪大学がとる。ピリオド間のミーティングで強いプレスとマークチェックを確認した東大は、持ち味のディフェンスから流れを作る攻撃へと移行。そのプレスの強さに大阪大学も前のピリオドまでのような攻めはできずに、ロースコアなゲームが展開されていく。ピリオド開始から半分が過ぎようかというところで、山田のシュートがゴールネットを揺らし、同点とする。振出しに戻って落ち着いた東大はこのピリオドを2対1で勝ち取り、同点に追いつく。勝負は最終ピリオドへともつれ込む。

第四ピリオド

センターボールを取った大阪大は試合を決めにかかろうと、今までにはあまり見られなかったロングパスを出し始める。ここぞとばかりに東大はパスカットを成功させ、あっという間に2点を奪う。粘る大阪大も2点を返し同点に追いつく。同点となり、次の1点が重い意味を持つ展開となってゲームが膠着しはじめ、皆が息をのむ中梶原のミドルシュートが決まる。これで勢いは東大のものとなり、続いて2点を決めゲームは15対12で東大。

攻めの強い大阪大との試合で、負けじと点を取りディフェンスで逃げ切る展開として勝つことができた。しかしライバルの京都大学はこれ以上に攻めてくるチームであり、より一層守りに力を入れて挑んでいく必要があることを再認識させられた。泳ぎのはやいチームと対峙するにあたって、ディフェンスカバーがとても重要であることが今一度確認できたため、七帝戦優勝に向けたいい試合になったといえる。京大と戦うにあたっては、よりロースコアなゲームに持ちこみたいものだ。(文責 川島)